

CONTENTS

- ひと月の経験 ● 学校、先生の鼓動 2
- 高校入試 ● 都内公立中3年「志望予定調査」から分かること 5
- 私学研究 ● なぜ、付属校、系属校が増えるのか? 15
- 大学入試 ● 小論文の新しいテーマを探る 18

今月の夕回一ズアツブ

「もんじゃ焼き屋」に学ぶ

私はレストランに行くと、ほとんど出てきたものをそのまま食べる(さすがにパスタの時だけはチーズを振りかけたり、タバスコを垂らしたりするが)。大多数の人がそうではないだろうか。

が、友人の一人に、必ずソースや醤油をかけたり、七味をかけたりする奴がいる。一度「プロの料理人が味付けしてくれているのに失礼だろ」と言ったことがある。そうしたら、「海外ではテーブルにいろいろな調味料が載っていて、めいめいが自分の好みの味にして食べるのがふつう」と返された。私の海外でのレストラン体験はセッティングされたものが多く、自分であれこれ味付けした経験がないのでわからないだが、そうだとするとこのことはきわめて示唆に富む。

海外では素材に近い形で提供し、客が自分の好みに合わせて味付けする。日本では調理人が完成品を提供し、客は出されたものをそのまま食べる。そう受け止めていくと、いま盛んに「受け身の姿勢から主体的、能動的に動くように転換する必要がある」と言われていることも根は深いことがわかる。

浅草で「もんじゃ焼き屋」をやっている従姉妹がいる。人手不足の時代に、「もんじゃ焼き屋」は強いという。そもそも調理をお客がやるのであるから、食べ物屋で一番重要な調理人が要らない。素材を良くして、客が自分たちで調理を楽しめるような場づくり、雰囲気づくりをすれば、それでOK。修学旅行生には「どこから来たの?」「えっ、〇〇県から来てくれたのか。」「おばさん、以前〇〇県に旅行したときに地元の人に親切にされたから、そのお礼にみんなにはおまけしちゃう! いっぱい食べて」……これで翌年の後輩にも引き継がれる(当然〇〇県はどこでもいいのである)。

自分たちでワイワイ言いながら協力しあって調理する。主体性・多様性・協働性を養うには、グループで「もんじゃ焼き屋」に行かせるといいかもしれない。

学校、先生の鼓動

年末年始はいつにもまして来客、会食が多い。そのうえ、この時期には珍しく2校で教員研修があった。大勢の先生と話をするなかで、「いいことだな」と感じたこと、「？」に思ったことがある。そのうちのいくつかについて、記してみよう。取り入れてみよう、この点は改善してみよう……ということがあれば、敢えてこのようなページを設けた意味があり、嬉しい。

<理事長>

●理事長であることが目的？

1月8日朝、正則学園高校(広く報道されたので固有名詞を出す)の教員がストライキを行った。「毎朝7時前に行われている理事長へのあいさつは廃止するべき」という主張である。このニュースに接したときにまず思ったことは、この理事長は「理事長である」ことが目的化しているな、ということ。

丸山真男ではないが、立場において「である」ことは意味がなく、その立場として何かを「する」ことで、初めて意味が生まれるのだと思う。

●大局的はいいけれど…

次にその「する」の中身である。理事長は大局的な視点から意見を言うべきである。そのとおりである。ある学校で、理事長から「これからの日本の教育は、偏差値に象徴されるものから脱却する方向なのだから、わが校も『特進コース』を止めよう」と提案があった。が、この学校は四谷大塚、日能研の偏差値表には校名が出てこない。高校受験の進学研究会の偏差値表では『特進コース』はまあまあの位置に出てくるが、『総合コース』はごく下のほうである。『特進コース』を廃止したら、受験生・保護者の目に触れなくなってしまう。

理事長は学園一の権力者である。正論でもあるだけに提案を無視できない。校長は現場との板挟みになる。日ごろからこまめに現状を報告しておかないと無用な摩擦を生むことになる。

<校長>

●最前線を皮膚感覚で知っておく

帰国生入試を行っている学校の広報部長からのメールが海外から来ることは以前からあった。それが最近校長からも海外から来る。「シリコンバレーに来ています」「アメリカ東部のリベラルアーツ大学を見て歩いています」……。校長が校長室にこもっている学校と、時代の動向をつかむべく、自らアクティブに行動している学校とでは、どんどん差が開いていく。

●生徒の名前がどんどん出てくる

センスのいい居酒屋である校長と会食していたときのことである。料理を運んでくる若者が、「K校長ではないですか。僕、昨年卒業した〇〇です」と話しかけてきた。「あっ、〇〇君、覚えているよ。ここでバイトしているの？同期の〇君、知っている？」「〇は部活が一緒だからよく知っています」「今ね、〇君が早慶上理

を皆落ちで、9月に台湾の大学に進んだ話を安田先生にしていたところ。O君、すごいんだよ。微積分の試験で満点を取って、学部長から学費免除にするって言われたんだって」「僕も彼とはメールしあっているのでも聞きました」「じゃ、N君は？

彼、推薦で決めたじゃない。で、大学入学まで実験を継続していて学術誌に論文が掲載される話があったの。それがダメになり、すごく落ち込んでメールをよこしたの。私、この正月休みはマレーシアにいたんだけど、マレーシアにメールきたわけ。『やった！ やった！ やった！』とだけ書いてあった。よほどうれしかったんだね。」ほかにもあとからあとから生徒の名前が出てくる。「〇〇君、今度学校おいでよ。」この校長の生徒との「距離感」には感心してしまった。

<組織>

●低温組織

学校を訪れたとき、なんとなく「温度が低い」と感じる学校がある。もちろん向かい合ってやり取りしている校長、広報部長は今の状況を何とかしようと頑張っている。が、受付の対応、通り過ぎる先生の様子、ホール・廊下の掲示物…が「低温」なのである。来校する人にエネルギーを感じさせない学校は真っ先にはじかれてしまう。

●高校のほうが偉い？

中高一貫校でも中学と高校の交流が乏しい学校がある。高校の先生は中学の授業を持ちたがらない。当然、中学と高校での意見、情報交換も乏しいので、学習効果も上がりにくい。なんとなく「高校のほうが偉い」という意識があるようであるが、そんな意識の先生がいる限り、中高一貫校ではない。

●ずっと教務部

1つの校務分掌の「専門家」できている先生が案外多い。ずっとやっているうちに他の仕事はわからないので、やりたくなくなる。そして、他の部署の事情は視野に入らず、自分の部署の事情だけを主張する。社会、受験生・保護者がめまぐるしく変化している今、硬直化した組織では取り残される。

<平場>

●「平場の学校」

書店をブラブラしていたら、『平場の月』という書名が目に入った。帯には、「ちょうどよく しあわせ なんだ」とある。裏の帯には「朝霞、新座、志木——。家庭を持ってこのへんに住む元女子たち。元男子の青砥も、このへんで育ち、働き、老いぼれていく連中のひとりである」

早速安田研に戻り、机上にあった辞書(小学館の「新選国語辞典」)で「平場」を引く。【平場】①平地。ひらち。②ひら土間。えっ、これだけ？ 「福武国語辞典」「岩波国語辞典」もほぼ同じ。分厚い「角川国語中辞典」も引っぱり出してみたが、やはりこの意味しか載っていない。三省堂の「例解新国語辞典」には採用すらされていない。

なぜこんなにこだわるのかと言えば、私の意識の中にはもう1つ意味があるか

らである。ネットで調べると出ていた。③組織などにおいて、幹部や代表者でなく一般の人々の立場。このニュアンスこそが私の中の「平場」である。

●グローバルリーダー

だいぶ前の「ビジョナリー」に下記のことを書いた。

仕事柄「学校案内」を開くことが多い。しばしば目にするキャッチコピーに「グローバル社会のリーダーを育てる」というのがある。が、偏差値30台の学校を訪れ、現実の生徒を目の当たりにしていると、こうしたフレーズよりずっと手前の次元のことが気になってしまう。ある学校で、校長と二人だけになった時に、「実際のところ、先生の学校では生徒さんをどう育てたいと考えていらっしゃるのですか。」と尋ねてみた。すると、「うちの生徒のレベルでは『国際社会で活躍』を望んでも難しいでしょう。むしろ地域社会で、人と協力しながらいきいきと生きられる人間に育てたいと思っています」そう率直に語られた。

学校から駅に戻る道すがら、以前読んだ「崖っぷち弱小大学物語」(杉山幸丸著・中公新書ラクレ)を思い出していた。京都大学から中京地区の無名の私立大学に学部長として招かれた著者は、これまでとあまりに違う学生の状況に接して、どうしたものか悩み続ける。そして次のような結論に達するのである。

「普通の人間が普通の社会で普通の人生を送れるように育てよう。普通の若者が元気を出せるような教育をしよう」と。

「学校案内」にこうした現実を表現するわけにはいかないだろう。が、一方では、生徒を見つめ、「背伸び」だけでなく、真に生徒のためになることをやってほしいものである。「平場の学校」には平場の立ち位置がある。

<学校を支える人たち>

●フォロアーシップ

今年最初にお会いしたのは昨年退職された校長だった。その先生と親しくなるきっかけとなったのが下記の1通のメールだった。

「私は、委員長やチーフではないけれども黙々と仕事をしている生徒に心ひかれます。目立たず、ほめられなくても周りを見て自分がやるべきだと思うことをやっている、そういう生徒によって学校は支えられていると感じています。」

●グラウンドを見ることのない選手

ある学校で新年会があった。お偉いさんの挨拶があった後、壇上に登ったのは活躍した部活の監督・部長。さすがにそれぞれが全国大会に出場している部だけあって、日々の活動の様子は素晴らしい。

硬式野球部の監督はまだ就任して1年半。初々しい。「迷いばかりなのでしょっちゅう校長室に行きました。いつもドアが開いているので相談しやすかったです。」

甲子園というと、ベンチ、観客席がテレビに映るので、誰もが試合を見ているものと思いこんでいた。監督は、甲子園に来て一度も試合を見ない選手の話をした。試合前からずっとブルペンにこもり、ひたすら投手の投球を受け続けるキャッチャーがいる。投手の交替は、そのキャッチャーのアドバイスを聞いて、判断するほど信頼していると語った。

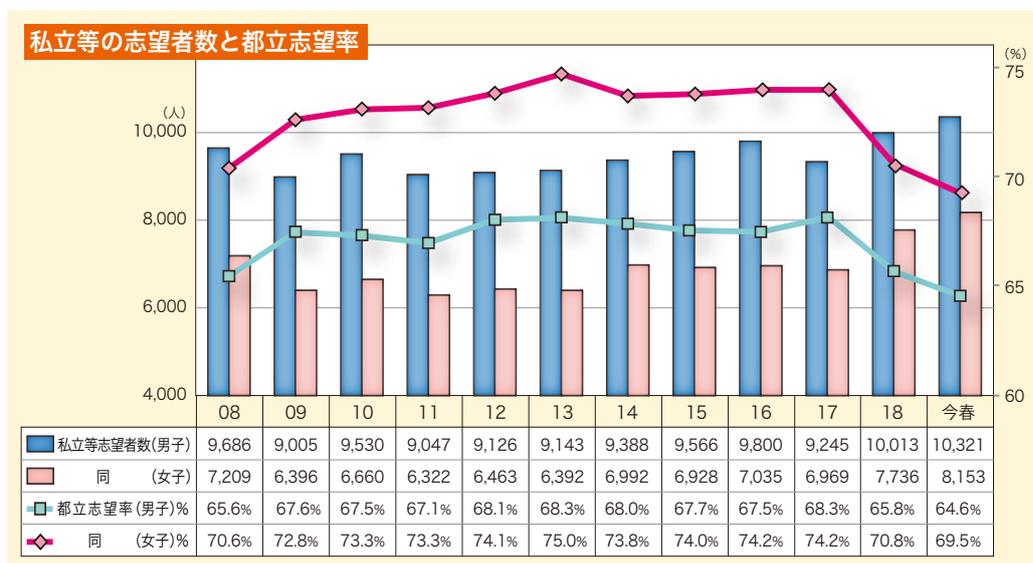
都内公立中3年「志望予定調査」から分かること

無償化の影響広がる

東京都教育委員会は1月8日、「都立高校全日制等志望予定(第1志望)調査結果」を発表した。今号では、これをもとに都立各校の一般入試の不合格者数を推計、私立への影響など、今春の入試予測を試みた。資料は(株)進学研究会から提供を受けた。

◆ 都立約1千2百人減少 私立約7百人増加

- ◎ 公立中高一貫を除く卒業予定者数は76,641人で、前年より334人(男子57人増、女子391人減)減少した。
- ◎ 全日制高校志望者数は70,219人で、前年より380人減った。全日制志望率は昨年→今年で、男子は91.3%→91.0%と低下、女子は92.2%→92.3%と上昇した。
- ◎ 通信制志望者は男女計1,969名で、6年前の6倍強に。
- ◎ 全日制志望者のうち都立志望者の数(高専を含む)は51,280人で、昨年より1,217人(男子447人、女子770人)減少した。
- ◎ 全日制志望者に占める都立志望者の割合は、一昨年→昨年→今年で71.1%→68.2%→66.9%(男子…68.3%→65.8%→64.6%、女子…74.2%→70.8%→69.5%)と、2年続けて低下した(下の折れ線グラフ)。
- ◎ 都立志望者数は男女とも過去10年間で最も少なく、志望率も最低。
- ◎ 都立高校全体の平均志望倍率は1.25倍で、08年以降で最低の値。
- ◎ 私立等志望者数(下の棒グラフ)は、男女とも2年連続して増加し、過去11年間で最多となった。
- ◎ 私立等志望者の卒業予定者に占める割合は、男子が22.7%→25.0%→25.7%、女子は18.7%→21.0%→22.3%と続伸した。



◆ 都立志望者はどこで減ったのか？

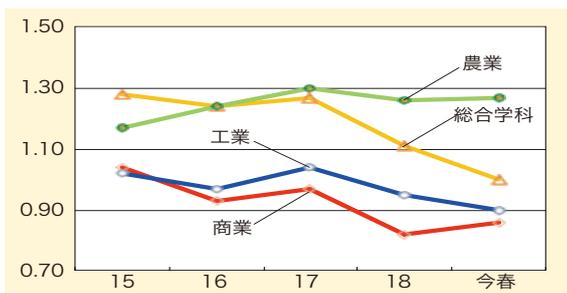
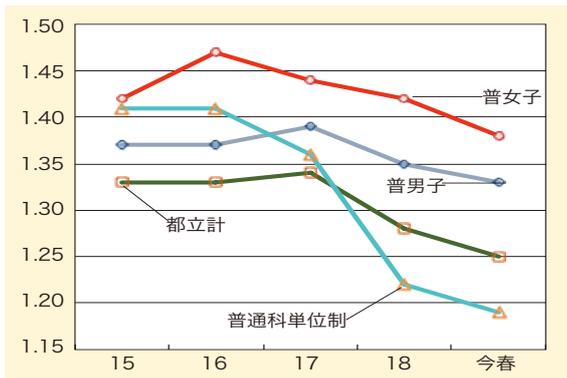
都立志望者数は前年より1,217名減った。

学科別に調べると、一番減ったのは普通科旧学区の935人減で、うち7割強の686人が女子。2番目は総合学科の250人減、3番目は普通科単位制で69人減となった。

一昨年→昨年→今年の志望倍率は、普通科学区男子…1.39倍→1.35倍→1.33倍、同女子…1.44倍→1.42倍→1.38倍、普通科単位制…1.36倍→1.22倍→1.19倍、総合学科…1.27倍→1.11倍→1.00倍と軒並み低下、都立全体では1.36倍→1.28倍→1.25倍と、08年以降で最低の倍率までダウンした。

その他では、コース、商業科、農業科、産業科、芸術科、家庭科(単位制)を除き軒並み低下した。

志望者数が募集人員に満たない学校の数は、普通科旧学区男子に22校、同女子で24校、普通科コースに3校、同単位制に6校もある。

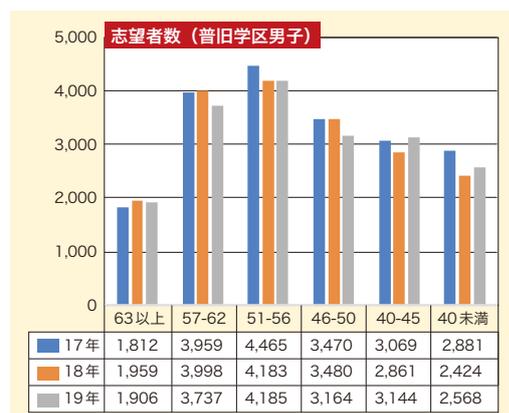


◆ 大学進学への不安

下図では、志望者が最も多く減った普通科旧学区について、Vもぎの合格基準で6つのレンジに分け、志望者数の3年推移を男女別の棒グラフで表した。

一昨年から昨年にかけては、男子が51～56と45以下で、女子は51～56と40未満のレンジで志望者を減らしたが、今年は、男子が57～62と46～50のレンジで新たに減少したほか、昨年減らしたレンジでも40～45以外では回復していない。女子でも、57～62で新たに減少、51～56では減少幅がさらに大きくなるなど、減少するレンジが多くなり、志望者の動きが複雑になっているように見える。

減少の原因として、無償化による私立や通信制への移動のほかに、大学進学への不安の高まりがある。中上位の減少は、「第一志望は私立(大付属)」と答えた生徒が増えたため、単願推薦などは利用していないと考えられる。そうした生徒は第一志望の私立を不合格となった場合、併願する私立や都立を受験するため、第二次募集に向かう受験生が昨年よりは増えることになるだろう。



◆ 増減の多い学校 地域差も

地域による違いも目に付いた。学区計の志望者数(男女計)を昨年より増やしたのは、1学区(70人以上増は、田園調布183人増、大崎74人増)と5学区(江北78人増)と6学区(南葛飾122人増、日本橋117人増、小岩104人増、本所100人増、城東86人増)。6学区は専門学科が多く、少ない普通科で来年は3校が学級減する。

逆に減らした学区は、354人減の9学区(小平南116人減、小金井北115人減)や357人減の4学区(向丘175人減、竹早145人減、北園78人減、文京77人減)、279人減の2学区(駒場175人減、広尾109人減、千歳丘71人減)など。

◆ 進学指導重点校と特別推進校

進学指導重点校について、志望者の増減を調べると、昨年→今年では、男子は、西(37人減)と八王子東(54人減)が減らしたため合計数を減らしたが、日比谷は5年ぶりに26人増、青山は4年振りに36人増と志望者を増やした。女子は、日比谷(29人減)、国立(50人減)などが減らす一方、戸山(40人増)、立川(30人増)などが増やし、全体では昨年と同数だった。

志望倍率では、青山が1学級減となるため、男子が1.48倍→1.94倍、女子が1.56倍→1.86倍と急上昇している。

今年度から小松川が加わった進学指導特別推進校の志望者数は、合計では昨年より増えているが、大きく減らしている学校が2校ある。

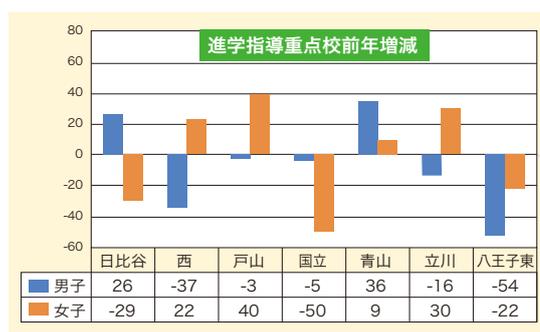
その1校は普通科単位制の新宿。昨年→今年で704人→596人と百人以上減少した。新宿の志望者数が600人を下回るのは2005年以来14年振り、07年に特別推進校に指定されて以来初めてのことだ。

もう1校は駒場。男子が288人→223人、女子が266人→156人と、男女計で175人も減らしている。

このほかに進学指導推進校でも、三田…80人減、竹早…145人減、北園…78人減、小金井北…115人減など、減少が目立つ学校がある。

とくに上位の男子の減りが目立ち、偏差値58以上では350人近く減っている。この原因は、大学の付属校を第一志望としているためと思われる。

とくに上位の男子の減りが目立ち、偏差値58以上では350人近く減っている。この原因は、大学の付属校を第一志望としているためと思われる。



◆ 都立の定員割れは昨年以上に？

次ページからの表では、一般入試の不合格者数(予想)を今年と比べた。

全入が予想されるのは、普通科旧学区で八潮の男女、大森の男女、蒲田の女子、松原の男子、深沢の女子、光丘の男女、田柄の男女、竹台の男子、淵江の男子、葛西南の男子、日野の男女、山崎の女子、野津田の女子、羽村の男女、永山の男子。

専門等では、コースの田柄、普通科単位制の飛鳥、総合学科の葛飾総合、江東商業のビジネス、五日市の商業、杉並工業、北豊島工業、蔵前工業、荒川工業、足立工業、墨田工業、町田工業、六郷工科、野津田の体育、福祉。

昨年より多くの学校で、定員割れが起こりそうだ。

◆ 大学付属校の増減

下の表は、12月の進研Vもぎの大学付属校への志望集計である。

志望件数は昨年より全体で約2% 減少したが、ここにあげた大学付属の高校では、約1%増加している(日大系の付属を除くと1千件以上増加している)。

大学グループ別にみると、A、Cグループは減ったが、昨年明治大学系が増えたBグループは、今年は中央大学系が増えて約2%増となった。とくにDグループは、日大を除く「東駒専」の3校で563件増と集めている。

私大付属校への志望者の増加は、Bグループ(GMARCH)とDグループ(東駒専)で起こっており、これは9ページで示したレンジ別の増減と一致している。

昨年、無償化から始まった都立志望者の減少は、今年、大学進学への不安がその勢いに拍車をかけたようだ。入試の仕組みがこのままなら来年度も続きそうだ。

学 校 名	前年	今年	前年増減	前年比	国学院久我山	491	→	440	-51	90%	
慶応義塾女子	198	→	172	-26	87%	明 治 学 院	1,209	→	1,291	82	107%
早大高等学院	370	→	304	-66	82%	明治学院東村山	487	→	444	-43	91%
早 稲 田 実 業	491	→	531	40	108%	Cグループ	6,274	→	6,096	-178	97%
Aグループ	1,059	→	1,007	-52	95%	日 大 櫻 丘	1,451	→	1,304	-147	90%
学 習 院	169	→	165	-4	98%	日 大 鶴 ヶ 丘	1,502	→	1,318	-184	88%
明大付属明治	684	→	615	-69	90%	日 大 豊 山	583	→	464	-119	80%
明大付属中野	1,062	→	1,062	0	100%	日大豊山女子	206	→	127	-79	62%
明大中野八王子	637	→	558	-79	88%	日 大 第 一	842	→	646	-196	77%
青 山 学 院	934	→	929	-5	99%	日 大 第 二	918	→	666	-252	73%
立 教 池 袋	56	→	65	9	116%	日 大 第 三	232	→	194	-38	84%
中 大 附 属	736	→	956	220	130%	目 黒 日 大	707	→	696	-11	98%
中 大 杉 並	1,204	→	1,418	214	118%	東 洋 大 京 北	668	→	799	131	120%
中 央 大 学	923	→	911	-12	99%	駒 澤 大 学	995	→	1,069	74	107%
法 政 大 学	899	→	801	-98	89%	専 修 大 附 属	970	→	1,328	358	137%
Bグループ	7,304	→	7,480	176	102%	Dグループ	8,367	→	8,611	244	103%
成 蹊	365	→	318	-47	87%	A+B計	8,363	→	8,487	124	101%
成 城 学 園	252	→	262	10	104%	A+B+C計	14,637	→	14,583	-54	100%
國 學 院	3,470	→	3,341	-129	96%	全グループ計	23,004		23,194	190	101%

学 校 名	年 度	男女 緩和	男子							女子							男女計	
			合格基準	募集 人員	予定調査		受検 倍率	不合 格数	前年 増減	合格基準	募集 人員	予定調査		受検 倍率	不合 格数	前年 増減	不合 格数	前年 増減
					志望数	倍率						志望数	倍率					
日 比 谷	18		900	165	276	1.67	1.80	93		890	152	254	1.67	1.80	90		183	
	19		910	166	302	1.82	2.01	122	29	910	151	225	1.49	1.55	59	-31	181	-2
小 山 台	18		820	164	257	1.57	1.50	65		840	152	244	1.61	1.65	77		142	
	19		840	165	285	1.73	1.68	87	22	850	151	285	1.89	1.96	114	37	201	59
三 田	18	●	790	133	277	2.08	1.92	108		810	123	303	2.46	2.15	101		209	
	19	●	810	134	239	1.78	1.79	95	-13	840	122	261	2.14	2.09	94	-7	189	-20
雪 谷	18	●	670	144	273	1.90	1.72	94		700	133	262	1.97	1.97	90		184	
	19	●	700	145	234	1.61	1.48	66	-28	720	132	249	1.89	1.87	78	-12	144	-40
田 園 調 布	18		650	112	98	0.88	1.32	28		670	104	108	1.04	1.37	30		58	
	19	●	660	113	200	1.77	1.89	87	59	680	103	189	1.83	2.14	84	54	171	113
大 崎	18		530	144	166	1.15	1.18	8		540	133	139	1.05	0.91	0		8	
	19	●	540	145	214	1.48	1.43	45	37	540	132	165	1.25	1.27	31	31	76	68
八 潮	18	●	440	133	90	0.68	0.94	0		450	123	82	0.67	0.76	0		0	
	19		440	134	96	0.72	0.95	0	0	450	122	89	0.73	0.85	0	0	0	0
大 森	18	●	400	123	105	0.85	0.80	0		420	114	87	0.76	0.78	0		0	
	19		380	124	98	0.79	0.88	0	0	390	113	93	0.82	0.93	0	0	0	0
浦 田	18		エンカレッジ	71	94	1.32	1.39	16		エンカレッジ	66	75	1.14	1.34	13		29	
	19		エンカレッジ	87	76	0.87	0.95	0	-16	エンカレッジ	80	49	0.61	0.65	0	-13	0	-29
1学区計	18		1189	1636	1.38		412			1100	1554	1.41		401		813		
	19		1213	1744	1.44		502	90		1106	1605	1.45		460	59	962	149	
戸 山	18		870	164	355	2.16	2.01	128		860	152	238	1.57	1.62	72		200	
	19		880	165	352	2.13	2.01	128	0	880	151	278	1.84	1.88	102	30	230	30
青 山	18		850	165	245	1.48	1.76	111		860	152	237	1.56	1.68	90		201	
	19		860	145	281	1.94	2.05	134	23	870	132	246	1.86	1.99	116	26	250	49
駒 場	18		820	144	288	2.00	1.61	69		840	132	266	2.02	1.72	74		143	
	19		830	144	223	1.55	1.34	38	-31	860	132	156	1.18	1.14	13	-61	51	-92
目 黒	18	●	720	123	202	1.64	1.59	67		740	114	205	1.80	1.98	78		145	
	19	●	750	124	212	1.71	1.64	74	7	770	113	195	1.73	1.77	57	-21	131	-14
広 尾	18	●	670	103	196	1.90	1.88	77		710	94	201	2.14	2.27	84		161	
	19	●	710	124	147	1.19	1.26	36	-41	740	113	141	1.25	1.45	28	-56	64	-97
松 原	18	●	570	102	95	0.93	0.99	7		590	94	129	1.37	1.50	26		33	
	19	●	590	102	81	0.79	0.83	0	-7	620	94	92	0.98	1.08	0	-26	0	-33
桜 町	18	●	540	164	160	0.98	1.16	34		560	152	172	1.13	1.43	36		70	
	19	●	570	165	170	1.03	1.30	53	19	580	151	208	1.38	1.63	60	24	113	43
千 歳 丘	18	●	450	144	126	0.88	1.22	37		460	133	200	1.50	1.67	58		95	
	19	●	460	145	117	0.81	1.15	27	-10	480	132	138	1.05	1.44	33	-25	60	-35
深 沢	18	●	440	93	81	0.87	1.05	11		460	85	84	0.99	1.27	11		22	
	19	●	440	95	106	1.12	1.39	22	11	460	87	58	0.67	0.84	0	-11	22	0
2学区計	18		1202	1748	1.45		541			1108	1732	1.56		529		1070		
	19		1209	1689	1.40		512	-29		1105	1512	1.37		409	-120	921	-149	
西	18		880	164	293	1.79	1.74	91		890	152	202	1.33	1.37	42		133	
	19		890	165	256	1.55	1.56	67	-24	900	151	224	1.48	1.49	55	13	122	-11
大 泉	18		760	39	47	1.21	1.39	11		770	39	60	1.54	1.61	17		28	
	19		770	39	53	1.36	1.48	14	3	790	39	42	1.08	1.19	4	-13	18	-10
富 士	18		750	39	38	0.97	1.45	13		760	39	40	1.03	1.42	12		25	
	19		770	39	44	1.13	1.29	8	-5	780	39	38	0.97	1.32	8	-4	16	-9
豊 多 摩	18		760	164	316	1.93	1.86	111		770	152	236	1.55	1.79	95		206	
	19		780	165	303	1.84	1.83	109	-2	790	151	273	1.81	2.01	121	26	230	24
井 草	18	●	700	144	207	1.44	1.62	83		730	133	197	1.48	1.65	56		139	
	19	●	730	145	194	1.34	1.42	59	-24	760	132	175	1.33	1.48	37	-19	96	-43
石 神 井	18		670	144	269	1.87	1.65	74		690	132	300	2.27	1.93	97		171	
	19		700	144	308	2.14	1.86	99	25	720	132	276	2.09	1.87	90	-7	189	18
武 蔵 丘	18	●	630	165	243	1.47	1.70	105		660	152	247	1.63	1.85	89		194	
	19	●	670	166	166	1.00	1.17	36	-69	680	151	204	1.35	1.48	43	-46	79	-115
杉 並	18		630	165	157	0.95	1.11	14		660	152	177	1.16	1.36	43		57	
	19	●	650	166	202	1.22	1.32	29	15	690	151	136	0.90	1.01	12	-31	41	-16
鷺 宮	18		600	144	243	1.69	1.50	57		620	132	253	1.92	1.96	101		158	
	19		620	144	249	1.73	1.63	72	15	640	132	280	2.12	2.17	123	22	195	37
光 丘	18		470	141	96	0.68	0.97	0		490	130	93	0.72	0.96	0		0	
	19		480	142	83	0.58	0.76	0	0	480	129	79	0.61	0.84	0	0	0	0
練 馬	18	●	450	144	136	0.94	1.12	25		460	133	136	1.02	1.27	16		41	
	19	●	470	145	121	0.83	1.01	7	-24	480	132	111	0.84	1.03	2	-14	3	-38
田 柄	18		430	46	44	0.96	1.03	1		460	43	57	1.33	1.30	9		10	
	19		440	53	37	0.70	0.76	0	-1	460	49	41	0.84	0.79	0	-9	0	-10
3学区計	18		1499	2089	1.39		585			1389	1998	1.44		577		1162		
	19		1513	2016	1.33		494	-91		1388	1879	1.35		495	-82	989	-173	

学 校 名	年 度	男女 緩和	男子						女子						男女計			
			合格基準	募集 人員	予定調査		受検 倍率	不合 格数	前年 増減	合格基準	募集 人員	予定調査		受検 倍率	不合 格数	前年 増減	不合 格数	前年 増減
					志望数	倍率						志望数	倍率					
竹 早	18		810	116	222	1.91	1.66	57		840	106	239	2.25	1.85	70		127	
	19		830	137	152	1.11	1.07	6	-51	850	125	164	1.31	1.19	17	-53	23	-104
北 園	18		770	165	328	1.99	2.08	141		800	152	319	2.10	2.26	153		294	
	19		800	166	272	1.64	1.72	93	-48	820	151	297	1.97	2.02	122	-31	215	-79
文 京	18	●	750	185	335	1.81	1.75	125		770	171	315	1.84	2.04	126		251	
	19	●	770	186	270	1.45	1.42	76	-49	790	170	303	1.78	1.85	99	-27	175	-76
豊 島	18	●	690	144	175	1.22	1.29	45		700	132	204	1.55	1.51	41		86	
	19	●	710	144	180	1.25	1.29	40	-5	720	132	179	1.36	1.39	33	-8	73	-13
向 丘	18	●	640	164	285	1.74	1.67	101		670	152	331	2.18	1.97	101		202	
	19	●	670	144	197	1.37	1.34	50	-51	690	132	244	1.85	1.76	67	-34	117	-85
高 島	18		600	164	186	1.13	1.13	15		620	152	175	1.15	1.34	40		55	
	19		600	165	251	1.52	1.52	65	50	630	151	218	1.44	1.67	79	39	144	89
板 橋	18		490	144	180	1.25	1.34	37		520	133	187	1.41	1.39	41		78	
	19		520	145	173	1.19	1.28	30	-7	550	132	206	1.56	1.63	66	25	96	18
大 山	18	●	430	111	110	0.99	0.98	0		450	102	87	0.85	1.03	0		0	
	19		410	111	116	1.05	1.10	9	9	430	102	99	0.97	1.15	12	12	21	21
4学区計	18			1193	1821	1.53		521			1100	1857	1.69		572		1093	
	19			1198	1611	1.34		369	-152		1095	1710	1.56		495	-77	864	-229
白 鷗	18		740	39	39	1.00	1.32	8		770	39	26	0.67	1.39	10		18	
	19		760	39	41	1.05	1.35	9	1	770	39	43	1.10	1.55	15	5	24	6
上 野	18		730	164	242	1.48	1.53	67		740	152	214	1.41	1.71	85		152	
	19		750	165	254	1.54	1.62	79	12	770	151	236	1.56	1.79	94	9	173	21
江 北	18	●	620	164	238	1.45	1.67	77		630	152	177	1.16	1.40	59		136	
	19	●	640	165	272	1.65	1.86	110	33	650	151	221	1.46	1.67	80	21	190	54
足 立	18		550	144	195	1.35	1.33	37		550	132	251	1.90	1.62	65		102	
	19		560	144	221	1.53	1.66	75	38	580	132	197	1.49	1.44	46	-19	121	19
足立新田	18		490	131	126	0.96	1.05	5		510	120	137	1.14	1.15	14		19	
	19	●	490	137	153	1.12	1.15	16	11	500	125	130	1.04	1.09	9	-5	25	6
竹 台	18		480	96	50	0.52	0.91	0		510	88	67	0.76	0.97	0		0	
	19		470	94	68	0.72	0.96	0	0	490	85	76	0.89	1.08	5	5	5	5
足 立 西	18		490	102	119	1.17	1.21	15		500	94	116	1.23	1.29	21		36	
	19		490	102	126	1.24	1.26	20	5	500	94	127	1.35	1.38	28	7	48	12
淵 江	18	●	440	108	120	1.11	1.10	15		460	99	96	0.97	1.21	9		24	
	19	●	450	113	90	0.80	0.89	0	-15	470	104	99	0.95	1.11	1	-8	1	-23
青 井	18	●	400	99	121	1.22	1.32	31		420	91	145	1.59	1.52	29		60	
	19	●	390	113	90	0.80	0.93	2	-29	420	104	105	1.01	1.18	7	-22	9	-51
足 立 東	18		エンカレッジ	72	111	1.54	2.02	43		エンカレッジ	66	100	1.52	2.13	43		86	
	19		エンカレッジ	93	100	1.08	1.32	20	-23	エンカレッジ	85	89	1.05	1.30	17	-26	37	-49
5学区計	18			1119	1361	1.22		298			1033	1329	1.29		335		633	
	19			1165	1415	1.21		331	33		1070	1323	1.24		302	-33	633	0
両 国	18		810	39	33	0.85	1.35	9		830	39	35	0.90	1.35	10		19	
	19		820	39	34	0.87	1.29	7	-2	840	39	27	0.69	1.06	1	-9	8	-11
小 松 川	18		790	165	227	1.38	1.44	56		800	152	203	1.34	1.39	47		103	
	19		810	166	259	1.56	1.59	75	19	830	151	199	1.32	1.36	43	-4	118	15
城 東	18		750	164	265	1.62	1.74	96		770	152	245	1.61	1.73	86		182	
	19		780	165	313	1.90	1.82	105	9	790	151	283	1.87	1.84	100	14	205	23
江 戸 川	18		690	186	301	1.62	1.47	68		710	171	265	1.55	1.46	61		129	
	19	●	710	166	341	2.05	1.86	111	43	740	151	282	1.87	1.83	99	38	210	81
深 川	18		670	120	165	1.38	1.38	34		700	111	192	1.73	1.62	49		83	
	19		690	121	165	1.36	1.34	31	-3	720	110	157	1.43	1.39	28	-21	59	-24
東	18		630	144	275	1.91	1.62	72		650	133	283	2.13	1.78	81		153	
	19		650	124	231	1.86	1.74	73	1	670	113	250	2.21	2.02	91	10	164	11
本 所	18		600	123	173	1.41	1.60	61		630	114	185	1.62	1.76	73		134	
	19		620	124	218	1.76	1.67	66	5	660	113	240	2.12	2.04	94	21	160	26
小 岩	18		590	185	311	1.68	1.60	88		610	171	327	1.91	1.88	118		206	
	19	●	610	186	375	2.02	1.97	152	64	630	170	367	2.16	2.13	144	26	296	90
紅 葉 川	18		550	123	200	1.63	1.64	62		580	114	157	1.38	1.49	44		106	
	19		580	124	152	1.23	1.26	25	-37	590	113	115	1.02	1.10	8	-36	33	-73
葛 飾 野	18	●	520	165	204	1.24	1.30	39		510	152	158	1.04	1.24	27		66	
	19		540	166	194	1.17	1.22	28	-11	540	151	174	1.15	1.35	40	13	68	2
日 本 橋	18	●	490	130	96	0.74	0.94	4		520	119	124	1.04	1.37	24		28	
	19	●	500	113	146	1.29	1.44	47	43	540	104	191	1.84	1.80	58	34	105	77
篠 崎	18		500	134	156	1.16	1.56	59		510	124	189	1.52	1.52	51		110	
	19		520	145	174	1.20	1.47	53	-6	540	133	172	1.29	1.49	51	0	104	-6
南 葛 飾	18	●	420	90	131	1.46	1.46	37		440	82	114	1.39	1.67	35		72	
	19		430	100	200	2.00	2.00	78	41	450	92	167	1.82	2.00	72	37	150	78
葛 西 南	18		420	145	134	0.92	1.14	15		440	133	146	1.10	1.28	30		45	
	19	●	430	145	99	0.68	0.85	0	-15	450	133	121	0.91	1.10	0	-30	0	-45
6学区計	18			1913	2671	1.40		700			1767	2623	1.48		736		1436	
	19			1884	2901	1.54		851	151		1724	2745	1.59		829	93	1680	244

学 校 名	年 度	男女 緩和	男子							女子							男女計	
			合格基準	募集 人員	予定調査		受検 倍率	不合 格数	前年 増減	合格基準	募集 人員	予定調査		受検 倍率	不合 格数	前年 増減	不合 格数	前年 増減
					志望数	倍率						志望数	倍率					
八王子東	18		840	164	226	1.38	1.45	56		850	152	218	1.43	1.48	57		113	
	19		850	165	172	1.04	1.11	11	-45	860	151	196	1.30	1.34	39	-18	50	-63
町田	18		790	165	227	1.38	1.30	38		800	152	217	1.43	1.44	53		91	
	19		800	166	233	1.40	1.41	52	14	820	151	188	1.25	1.27	32	-21	84	-7
日野台	18		760	157	206	1.31	1.47	56		780	145	163	1.12	1.26	28		84	
	19		780	158	209	1.32	1.40	48	-8	800	144	197	1.37	1.43	48	20	96	12
南平	18		720	165	257	1.56	1.61	76		750	152	251	1.65	1.66	80		156	
	19		750	166	255	1.54	1.62	77	1	770	151	251	1.66	1.70	83	3	160	4
成瀬	18		670	144	214	1.49	1.47	52		690	133	172	1.29	1.42	43		95	
	19		680	145	227	1.57	1.53	60	8	710	132	162	1.23	1.41	41	-2	101	6
富士森	18		610	162	189	1.17	1.20	25		630	149	233	1.56	1.46	48		73	
	19		620	163	207	1.27	1.31	39	14	640	148	275	1.86	1.69	76	28	115	42
松が谷	18		610	123	209	1.70	1.44	43		630	113	211	1.87	1.45	39		82	
	19		630	123	223	1.81	1.62	60	17	640	113	201	1.78	1.51	44	5	104	22
日野	18	●	610	165	196	1.19	1.10	24		620	152	180	1.18	1.34	26		50	
	19	●	620	166	131	0.79	0.79	0	-24	630	151	136	0.90	1.03	0	-26	0	-50
小川	18		570	164	168	1.02	1.19	24		580	152	166	1.09	1.25	28		52	
	19		590	165	204	1.24	1.43	56	32	600	151	168	1.11	1.21	24	-4	80	28
片倉	18		550	123	139	1.13	1.24	22		570	114	130	1.14	1.30	27		49	
	19		570	124	171	1.38	1.42	41	19	590	113	118	1.04	1.13	11	-16	52	3
八王子北	18		500	103	158	1.53	1.63	52		530	95	140	1.47	1.46	34		86	
	19		540	104	144	1.38	1.51	42	-10	550	94	122	1.30	1.33	24	-10	66	-20
山崎	18		480	111	79	0.71	1.00	0		480	103	54	0.52	0.70	0		0	
	19		480	112	105	0.94	1.17	15	15	480	102	57	0.56	0.76	0	0	15	15
野津田	18		440	62	68	1.10	1.16	7		460	57	66	1.16	1.11	4		11	
	19		420	62	56	0.90	0.98	0	-7	440	57	38	0.67	0.72	0	-4	0	-11
7学区計	18			1808	2336	1.29		475			1669	2201	1.32		467		942	
	19			1819	2337	1.28		501	26		1658	2109	1.27		422	-45	923	-19
立川	18		850	164	289	1.76	1.78	99		850	152	210	1.38	1.54	64		163	
	19		860	165	273	1.65	1.68	86	-13	860	151	240	1.59	1.71	84	20	170	7
昭和	18		750	164	303	1.85	1.70	89		770	152	321	2.11	1.72	86		175	
	19		780	165	271	1.64	1.55	70	-19	800	151	263	1.74	1.58	68	-18	138	-37
東大和南	18		700	144	256	1.78	1.74	84		720	132	221	1.67	1.74	77		161	
	19		730	144	250	1.74	1.66	74	-10	750	132	179	1.36	1.40	40	-37	114	-47
東大和	18		620	144	224	1.56	1.47	53		620	133	211	1.59	1.55	58		111	
	19		640	166	255	1.54	1.50	65	12	650	151	198	1.31	1.29	34	-24	99	-12
福生	18		530	144	199	1.38	1.26	29		550	133	168	1.26	1.33	33		62	
	19		560	145	175	1.21	1.18	20	-9	580	132	152	1.15	1.26	27	-6	47	-15
武蔵村山	18	●	500	144	146	1.01	1.29	34		520	133	145	1.09	1.33	33		67	
	19		510	145	156	1.08	1.33	37	3	540	132	147	1.11	1.37	38	5	75	8
拝島	18	●	450	144	113	0.78	1.07	6		460	133	98	0.74	1.08	9		15	
	19		450	145	118	0.81	1.09	9	3	450	132	108	0.82	1.09	9	0	18	3
羽村	18		440	148	101	0.68	1.02	2		460	137	121	0.88	1.11	12		14	
	19		430	149	88	0.59	0.84	0	-2	470	136	101	0.74	0.98	0	-12	0	-14
多摩	18	●	410	103	84	0.82	0.95	0		440	94	93	0.99	1.08	0		0	
	19	●	400	103	79	0.77	0.93	2	2	430	94	105	1.12	1.22	8	8	10	10
秋留台	18		エンカレッジ	86	134	1.56	1.96	40		エンカレッジ	80	73	0.91	0.85	0		40	
	19		エンカレッジ	106	149	1.41	1.68	47	7	エンカレッジ	96	91	0.95	1.00	0	0	47	7
8学区計	18			1385	1849	1.34		436			1279	1661	1.30		372		808	
	19			1433	1814	1.27		410	-26		1307	1584	1.21		308	-64	718	-90
武蔵野北	18		810	123	183	1.49	1.36	34		830	114	204	1.79	1.63	56		90	
	19		820	124	170	1.37	1.26	24	-10	840	113	196	1.73	1.56	49	-7	73	-17
武蔵	18		800	39	40	1.03	1.29	8		810	39	23	0.59	1.45	13		21	
	19		800	39	26	0.67	0.97	0	-8	810	39	30	0.77	1.39	11	-2	11	-10
小金井北	18		770	123	230	1.87	1.75	72		800	114	217	1.90	1.73	65		137	
	19		800	124	171	1.38	1.30	28	-44	820	113	161	1.42	1.25	21	-44	49	-88
清瀬	18		700	144	191	1.33	1.29	33		720	132	154	1.17	1.21	20		53	
	19		720	144	162	1.13	1.17	19	-14	740	132	142	1.08	1.14	14	-6	33	-20
小平	18	●	700	103	141	1.37	1.43	44		720	94	187	1.99	1.86	55		99	
	19	●	730	103	174	1.69	1.53	52	8	750	94	227	2.41	1.88	57	2	109	10
小平南	18		670	144	269	1.87	1.62	71		680	133	298	2.24	1.93	97		168	
	19		700	145	219	1.51	1.68	78	7	720	132	232	1.76	1.90	93	-4	171	3
保谷	18		610	165	231	1.40	1.58	76		630	152	201	1.32	1.66	80		156	
	19		640	166	236	1.42	1.56	74	-2	660	151	168	1.11	1.27	32	-48	106	-50
田無	18		580	164	164	1.00	1.29	37		590	152	189	1.24	1.39	46		83	
	19		590	165	166	1.01	1.18	23	-14	600	151	167	1.11	1.29	34	-12	57	-26
久留米西	18		520	144	136	0.94	1.19	20		540	132	108	0.82	1.06	5		25	
	19		540	123	151	1.23	1.39	38	18	550	113	117	1.04	1.20	17	12	55	30

学 校 名	年 度	男女 緩和	男子							女子							男女計	
			合格基準	募集 人員	予定調査		受検 倍率	不合 格数	前年 増減	合格基準	募集 人員	予定調査		受検 倍率	不合 格数	前年 増減	不合 格数	前年 増減
					志望数	倍率						志望数	倍率					
小 平 西	18		510	145	175	1.21	1.25	28		520	133	223	1.68	1.64	67		95	
	19		540	145	169	1.17	1.21	23	-5	550	133	170	1.28	1.22	22	-45	45	-50
東 村 山 西	18		470	144	110	0.76	0.97	0		480	133	138	1.04	1.36	33		33	
	19		470	124	104	0.84	1.01	0	0	490	113	106	0.94	1.20	17	-16	17	-16
東 村 山	18		エンカレッジ	71	97	1.37	1.63	26		エンカレッジ	65	110	1.69	2.03	38		64	
	19		エンカレッジ	92	95	1.03	1.11	7	-19	エンカレッジ	84	106	1.26	1.30	17	-21	24	-40
9学区計	18			1509	1967	1.30		449			1393	2052	1.47		575		1024	
	19			1494	1843	1.23		366	-83		1368	1822	1.33		384	-191	750	-274
国 立	18		880	164	275	1.68	1.50	62		880	152	302	1.99	1.81	98		160	
	19		890	165	270	1.64	1.56	70	8	890	151	252	1.67	1.59	69	-29	139	-21
調 布 北	18		770	123	137	1.11	1.42	38		780	113	134	1.19	1.32	28		66	
	19		780	123	169	1.37	1.48	44	6	800	113	167	1.48	1.66	59	31	103	37
狛 江	18	●	710	186	283	1.52	1.58	83		750	171	234	1.37	1.44	59		142	
	19		750	166	323	1.95	1.85	110	27	770	151	305	2.02	2.03	124	65	234	92
調 布 南	18		690	123	234	1.90	1.67	64		720	114	209	1.83	1.60	53		117	
	19		720	124	171	1.38	1.15	13	-51	740	113	143	1.27	1.13	10	-43	23	-94
神 代	18	●	680	144	210	1.46	1.49	68		710	132	239	1.81	1.74	64		132	
	19	●	700	144	203	1.41	1.42	59	-9	730	132	226	1.71	1.62	52	-12	111	-21
府 中	18		620	144	156	1.08	1.48	55		650	132	161	1.22	1.59	62		117	
	19		650	144	168	1.17	1.35	39	-16	680	132	194	1.47	1.60	63	1	102	-15
府 中 西	18		560	156	210	1.35	1.42	51		570	143	185	1.29	1.41	46		97	
	19		570	156	162	1.04	1.26	32	-19	590	143	169	1.18	1.36	39	-7	71	-26
府 中 東	18	●	540	149	174	1.17	1.22	35		550	137	172	1.26	1.43	37		72	
	19	●	550	152	172	1.13	1.18	33	-2	570	139	206	1.48	1.59	53	16	86	14
永 山	18		480	166	184	1.11	1.27	29		500	152	159	1.05	1.38	42		71	
	19	●	490	166	116	0.70	0.76	0	-29	500	152	138	0.91	1.06	0	-42	0	-71
10学区計	18			1355	1863	1.37		485			1246	1795	1.44		489		974	
	19			1340	1754	1.31		400	-85		1226	1800	1.47		469	-20	869	-105

コース、単位制、専門等

科等	学 校 名	科	年 度	定員 全体	校長会調査		受検 倍率	不合 格数	科等	学 校 名	科	年 度	定員 全体	校長会調査		受検 倍率	不合 格数
					志望	倍率								志望	倍率		
コース	田 柄	外国文化	18	48	28	0.58	0.97	0	総合学科	つばさ総合	総合(単位制)	18	236	273	1.16	1.24	37
			19	55	32	0.58	0.92	-3				19	236	217	0.92	1.06	7
	深 川	外国語	18	80	93	1.16	1.50	26		世田谷総合	総合(単位制)	18	236	247	1.05	1.07	9
			19	80	105	1.31	1.71	38				19	236	204	0.86	1.01	0
	片 倉	造形美術	18	80	61	0.76	0.88	0		杉並総合	総合(単位制)	18	236	338	1.43	1.58	93
			19	80	72	0.90	1.05	1				19	236	307	1.30	1.43	69
	松 が 谷	外国語	18	80	112	1.40	1.48	25		王子総合	総合(単位制)	18	236	306	1.30	1.25	39
			19	80	84	1.05	1.54	29				19	236	275	1.17	1.15	22
五 日 市	ことばと情報	18	79	80	1.01	1.13	6	晴海総合		総合(単位制)	18	276	266	0.96	1.04	5	
		19	79	74	0.94	1.16	8				19	276	266	0.96	1.07	10	
小 平	外国語	18	80	81	1.01	1.54	29	葛飾総合		総合(単位制)	18	236	271	1.15	1.22	34	
		19	80	115	1.44	1.95	52				19	236	161	0.68	0.80	-35	
普通科単位制	新 宿	普(単位制)	18	316	704	2.23	2.06	297		町田総合	総合(単位制)	18	236	219	0.93	1.02	1
			19	316	596	1.89	1.79	221				19	236	256	1.08	1.23	35
	墨 田 川	普(単位制)	18	316	385	1.22	1.22	54		青梅総合	総合(単位制)	18	236	285	1.21	1.10	15
			19	316	418	1.32	1.35	86				19	236	306	1.30	1.18	28
	国 分 寺	普(単位制)	18	316	489	1.55	1.53	128	東久留米総合	総合(単位制)	18	236	199	0.84	0.90	0	
			19	316	539	1.71	1.71	173			19	236	219	0.93	1.04	5	
	美 原	普(単位制)	18	236	242	1.03	1.04	5	若葉総合	総合(単位制)	18	236	252	1.07	1.26	43	
			19	236	228	0.97	1.01	0			19	236	195	0.83	0.98	-4	
	芦 花	普(単位制)	18	276	399	1.45	1.50	109	商業科	芝	ビジネス	18	210	159	0.76	0.84	0
			19	276	383	1.39	1.45	97				19	210	172	0.82	0.97	-6
	大 泉 桜	普(単位制)	18	236	203	0.86	0.94	0		第 一	ビジネス	18	210	129	0.61	0.67	0
			19	236	206	0.87	0.96	-9				19	210	154	0.73	0.96	-8
	飛 鳥	普(単位制)	18	213	92	0.43	0.66	0		第 四	ビジネス	18	210	181	0.86	0.97	0
			19	213	131	0.62	0.88	-22				19	210	209	1.00	1.11	14
	板 橋 有 徳	普(単位制)	18	236	223	0.94	1.05	8		荒 川	総合ビジネス	18	210	163	0.78	1.03	2
			19	236	201	0.85	1.09	14				19	210	163	0.78	1.02	1
忍 岡	普(単位制)	18	156	162	1.04	1.17	19	葛 飾		ビジネス	18	210	167	0.80	1.02	1	
		19	156	130	0.83	0.97	-6				19	210	199	0.95	1.19	26	
翔 陽	普(単位制)	18	236	240	1.02	1.23	38	江 東		ビジネス	18	175	126	0.72	0.80	0	
		19	236	231	0.98	1.06	7				19	175	109	0.62	0.79	-27	
上 水	普(単位制)	18	236	243	1.03	1.26	45	第 三		ビジネス	18	210	164	0.78	0.92	0	
		19	236	240	1.02	1.12	21				19	210	197	0.94	1.09	12	

科等	学校名	科	年度	定員		校長会調査		受検倍率	不合格数
				全体	志望	倍率	倍率		
商業科	五日市	商業	18	70	56	0.80	1.02	0	
			19	70	33	0.47	0.59	-24	
	第五	ビジネス	18	210	261	1.24	1.25	43	
			19	210	244	1.16	1.14	23	
産業科	橘	産業	18	210	196	0.93	1.03	2	
			19	210	213	1.01	1.14	19	
	八王子桑志	デザイン	18	70	80	1.14	1.16	7	
			19	70	76	1.09	1.12	5	
		クラフト	18	35	43	1.23	1.32	7	
			19	35	58	1.66	1.68	16	
		システム情報	18	35	77	2.20	1.60	13	
			19	35	77	2.20	1.96	22	
		ビジネス情報	18	70	62	0.89	0.80	-12	
			19	70	75	1.07	1.27	11	
	合計	18	210	262	1.25	1.14	15		
	19	210	286	1.36	1.41	54			
工業科	総合工科	機械・自動車	18	70	43	0.61	0.53	0	
			19	70	81	1.16	1.18	8	
		電気・情報ア	18	70	40	0.57	0.69	0	
			19	70	55	0.79	1.08	3	
		建築・都市工学	18	70	32	0.46	0.37	0	
			19	70	41	0.59	0.73	-13	
	合計	18	210	115	0.55	0.53	0		
	19	210	177	0.84	1.00	-2			
	杉並	機械	18	70	55	0.79	0.86	0	
			19	70	53	0.76	1.04	1	
		電子	18	70	54	0.77	0.98	0	
			19	70	36	0.51	0.69	-16	
理工環境		18	35	24	0.69	0.92	0		
		19	35	9	0.26	0.32	-18		
合計	18	175	133	0.76	0.92	0			
19	175	98	0.56	0.76	-33				
芸	工芸	マシンクラフト	18	35	54	1.54	1.48	11	
			19	35	50	1.43	1.36	8	
		アートクラフト	18	35	49	1.40	1.56	12	
			19	35	39	1.11	1.20	3	
		インテリア	18	35	51	1.46	1.44	10	
			19	35	44	1.26	1.36	8	
		デザイン	18	35	67	1.91	1.88	21	
			19	35	83	2.37	2.28	31	
	グラフィック	18	35	39	1.11	1.04	0		
		19	35	74	2.11	2.00	24		
合計	18	175	260	1.49	1.48	54			
19	175	290	1.66	1.64	74				
北豊島	総合技術	18	175	114	0.65	0.76	0		
		19	175	102	0.58	0.72	-36		
蔵前	機械	18	70	55	0.79	0.67	-14		
		19	70	39	0.56	0.49	-26		
	電気	18	35	30	0.86	1.16	4		
		19	35	26	0.74	0.96	-7		
	建築	18	35	46	1.31	1.42	10		
		19	35	30	0.86	0.88	-3		
	設備工業	18	35	44	1.26	1.20	5		
		19	35	27	0.77	0.92	-2		
合計	18	175	175	1.00	1.02	5			
19	175	122	0.70	0.75	-32				
荒川	電気	18	70	74	1.06	1.08	4		
		19	70	66	0.94	1.02	0		
	電子	18	35	27	0.77	0.88	-3		
		19	35	30	0.86	1.28	6		
	情報技術	18	70	48	0.69	0.98	-1		
		19	70	35	0.50	0.80	-12		
合計	18	175	149	0.85	1.00	0			
19	175	131	0.75	0.98	-6				
足立	総合技術	18	175	142	0.81	1.01	0		
		19	175	110	0.63	0.74	-33		

科等	学校名	科	年度	定員		校長会調査		受検倍率	不合格数
				全体	志望	倍率	倍率		
工業科	墨田	機械	18	35	38	1.09	1.00	0	
			19	35	39	1.11	0.96	-2	
		電気	18	70	38	0.54	0.71	-12	
			19	70	39	0.56	0.76	-14	
		建築	18	35	36	1.03	1.40	10	
			19	35	26	0.74	1.00	-7	
		自動車	18	35	48	1.37	1.08	2	
			19	35	40	1.14	1.04	0	
	合計	18	175	160	0.91	0.98	0		
	19	175	144	0.82	0.90	-17			
	葛西	機械	18	35	73	2.09	1.52	12	
			19	35	48	1.37	1.08	7	
		電子	18	35	36	1.03	1.08	1	
			19	35	43	1.23	1.32	7	
		建築	18	70	62	0.89	0.96	-3	
			19	70	73	1.04	1.16	7	
		デュアルシステム	18	35	23	0.66	1.12	2	
			19	35	36	1.03	1.08	7	
	合計	18	175	194	1.11	1.13	12		
	19	175	200	1.14	1.16	16			
町田	総合情報	18	175	169	0.97	0.99	0		
		19	175	145	0.83	0.93	-11		
多摩	機械	18	70	110	1.57	1.12	5		
		19	70	121	1.73	1.45	21		
	電気	18	35	41	1.17	1.44	10		
		19	35	36	1.03	1.28	6		
	環境化学	18	35	16	0.46	0.84	-5		
		19	35	21	0.60	0.80	-6		
	デュアルシステム	18	35	15	0.43	0.96	-2		
		19	35	37	1.06	1.20	4		
合計	18	175	182	1.04	1.10	8			
19	175	215	1.23	1.23	25				
田無	機械	18	70	84	1.20	1.10	4		
		19	70	48	0.69	0.71	-15		
	建築	18	70	75	1.07	1.02	1		
		19	70	71	1.01	1.04	2		
	都市工学	18	35	29	0.83	1.08	2		
		19	35	39	1.11	1.28	7		
	合計	18	175	188	1.07	1.07	7		
	19	175	158	0.90	0.96	-6			
府中	機械	18	35	41	1.17	1.00	0		
		19	35	56	1.60	1.36	9		
	電気	18	70	47	0.67	0.94	-3		
		19	70	55	0.79	1.12	6		
	情報技術	18	35	36	1.03	1.36	9		
		19	35	71	2.03	1.88	21		
	工業技術	18	35	32	0.91	1.00	0		
		19	35	32	0.91	1.24	6		
合計	18	175	156	0.89	1.05	6			
19	175	214	1.22	1.35	42				
中野	キャリア技術	18	123	114	0.93	0.96	0		
		19	149	114	0.77	0.92	-8		
練馬	キャリア技術	18	123	168	1.37	1.70	50		
		19	158	144	0.91	0.99	-7		
六郷工科	プロダクト	18	70	40	0.57	0.45	-5		
		19	70	21	0.30	0.49	-26		
	オートモビル	18	30	37	1.23	1.33	7		
		19	30	43	1.43	1.57	11		
	システム	18	35	23	0.66	0.96	-1		
		19	35	25	0.71	1.04	0		
	デザイン	18	35	20	0.57	0.44	-1		
		19	35	31	0.89	1.00	0		
合計	18	170	120	0.71	0.71	0			
19	170	120	0.71	0.90	-15				
デュアルシステム	18	30	39	1.30	0.90	0			
	19	30	16	0.53	0.48	-12			

科等	学 校 名	科	年度	定員		校長会調査		受検倍率	不合格数
				全体	志望	倍率	倍率		
農業科	園 芸	園 芸	18	70	73	1.04	1.02	-1	
			19	70	62	0.89	0.92	-6	
		食 品	18	35	42	1.20	1.28	6	
			19	35	50	1.43	1.56	13	
		動 物	18	35	83	2.37	2.40	34	
	19		35	86	2.46	2.52	37		
	合 計	18	140	198	1.41	1.43	39		
		19	140	198	1.41	1.48	44		
	農 芸	園 芸 科 学	18	35	40	1.14	1.00	-1	
			19	35	36	1.03	1.04	0	
		食 品 科 学	18	70	60	0.86	1.08	2	
			19	70	77	1.10	1.22	9	
		緑 地 環 境	18	35	36	1.03	1.28	6	
	19		35	29	0.83	1.00	-1		
	合 計	18	140	136	0.97	1.11	7		
		19	140	142	1.01	1.12	8		
	農 産	園芸デザイン	18	70	57	0.81	0.88	-7	
			19	70	57	0.81	0.90	-6	
		食 品	18	70	100	1.43	1.22	10	
19			70	90	1.29	1.16	7		
合 計	18	140	157	1.12	1.05	3			
	19	140	147	1.05	1.03	1			
瑞穂農芸	園 芸 科 学	18	35	46	1.31	1.48	11		
		19	35	47	1.34	1.44	10		
	畜 産 科 学	18	35	59	1.69	1.88	21		
		19	35	68	1.94	2.00	24		
	食 品	18	35	50	1.43	1.36	8		
19		35	43	1.23	1.40	9			
合 計	18	105	155	1.48	1.57	40			
	19	105	158	1.50	1.61	43			
農 業	都 市 園 芸	18	35	50	1.43	1.36	8		
		19	35	51	1.46	1.48	11		
	食 品 科 学	18	35	67	1.91	1.12	2		
		19	35	84	2.40	1.96	23		
	緑 地 計 画	18	35	33	0.94	0.96	-2		
19		35	23	0.66	0.68	-9			
合 計	18	105	150	1.43	1.15	8			
	19	105	158	1.50	1.37	25			
家庭科	瑞穂農芸	生活デザイン	18	70	77	1.10	1.16	7	
			19	70	63	0.90	1.12	5	
	農 業	服 飾	18	35	35	1.00	0.96	-2	
			19	35	49	1.40	1.32	7	
	食 物	18	35	57	1.63	1.88	21		
		19	35	56	1.60	1.72	17		
	合 計	18	70	92	1.31	1.42	19		
		19	70	105	1.50	1.52	24		
	忍 岡	生 活 科 学	18	70	74	1.06	0.96	0	
			19	70	80	1.14	1.12	4	
国際科	国 際	18	140	330	2.36	2.59	153		
		19	140	336	2.40	2.64	158		
大島海洋国際	海 洋 国 際	18	80	79	0.99	1.02	1		
		19	80	61	0.76	0.95	-4		
科学技術科	科学技術	18	210	177	0.84	0.93	0		
		19	210	175	0.83	0.98	-8		
	多摩科学技術	18	210	307	1.46	1.56	71		
		19	210	261	1.24	1.32	40		
ビジネス科	大田桜台	18	210	154	0.73	0.82	0		
		19	210	175	0.83	0.95	-8		
	千 早	18	210	198	0.94	1.01	0		
		19	210	248	1.18	1.39	57		
芸術科	総合芸術	音 楽	18	40	47	1.18	1.57	14	
			19	40	48	1.20	1.71	18	
	美 術	18	80	145	1.81	2.04	57		
		19	80	148	1.85	2.05	58		
	舞 台 表 現	18	40	85	2.13	2.64	45		
19		40	86	2.15	2.68	46			

科等	学 校 名	科	年度	定員		校長会調査		受検倍率	不合格数
				全体	志望	倍率	倍率		
保体科福祉科	駒 場	保 体	18	40	50	1.25	1.79	20	
			19	40	57	1.43	1.71	18	
	野 津 田	体 育	18	72	51	0.71	0.92	0	
			19	72	44	0.61	0.73	-13	
		福 祉	18	35	34	0.97	1.12	3	
			19	35	20	0.57	0.68	-8	
	産業技術高専	ものづくり工学	18	320	336	1.29	1.92	191	
			19	320	329	1.27	1.82	171	
	昼夜間定時制他	一 橋	1 部	18	36	48	1.33	1.39	14
				19	54	43	0.80	0.85	-8
2 部			18	36	18	0.50	1.39	14	
			19	54	25	0.46	1.33	18	
3 部			18	24	22	0.92	1.54	13	
		19	36	10	0.28	0.44	-20		
昼夜間定時		18	96	88	0.92	1.43	41		
		19	144	78	0.54	0.93	-10		
荻 窪		1 部	18	36	87	2.42	2.33	48	
			19	54	43	0.80	0.78	-12	
		2 部	18	36	25	0.69	1.22	8	
			19	54	24	0.44	0.87	-7	
		3 部	18	24	24	1.00	0.96	-1	
19			36	4	0.11	0.11	-32		
昼夜間定時		18	96	136	1.42	1.57	55		
		19	144	71	0.49	0.65	-51		
浅 草		1 部	18	36	71	1.97	1.69	25	
			19	54	63	1.17	1.00	0	
		2 部	18	36	35	0.97	1.47	17	
	19		54	38	0.70	1.09	5		
	3 部	18	24	24	1.00	1.42	10		
19		36	21	0.58	0.72	-10			
昼夜間定時	18	96	130	1.35	1.54	52			
	19	144	122	0.85	0.97	-5			
八王子拓真	1 部	18	36	122	3.39	2.69	61		
		19	54	80	1.48	1.35	19		
	2 部	18	36	38	1.06	1.69	25		
		19	54	47	0.87	1.28	15		
	3 部	18	24	25	1.04	1.08	2		
		19	36	29	0.81	0.92	-3		
	昼夜間定時	18	96	185	1.93	1.92	88		
		19	144	156	1.08	1.22	31		
	チャレンジ枠	18	60	69	1.15	1.47	24		
		19	60	69	1.15	1.43	22		
砂 川	昼夜間定時	18	120	159	1.33	1.39	47		
		19	120	194	1.62	1.58	70		
新宿山吹	普 通 科	18	100	99	0.99	1.28	18		
		19	100	107	1.07	1.50	40		
	情 報 科	18	65	39	0.60	1.24	1		
		19	65	49	0.75	1.59	17		
合 計	18	165	138	0.84	1.27	19			
	19	165	156	0.95	1.53	57			
チャレンジ	六 本 木	チャレンジ	18	170	245	1.44	1.66	106	
			19	170	216	1.27	1.52	84	
	世田谷泉	チャレンジ	18	170	234	1.38	1.66	99	
			19	170	196	1.15	1.38	51	
	総ヶ丘	チャレンジ	18	200	290	1.45	1.70	131	
			19	230	288	1.25	1.45	97	
	桐ヶ丘	チャレンジ	18	170	157	0.92	1.06	15	
			19	170	177	1.04	1.09	11	
	大 江 戸	チャレンジ	18	170	243	1.43	1.59	92	
			19	170	214	1.26	1.44	69	

なぜ付属校、系属校が増えるのか？

別のところに書いたものだが、「ビジョナリー」会員にも読んでいただきたいので再録する。2019年度も、日本大学の50年ぶりの準付属校・目黒日本大学、青山学院大学の系属校になった浦和ルーテル学院と、付属、系属をめぐる話題が豊富だ。受験生、ご家庭が付属校を選ぶ理由、背景についてはいろいろなところに書かれていたり、話されたりしているので、ここでは逆の視点から、大学がなぜ付属校、系属校の強化に力を入れているのか、その理由について探ってみよう。

18歳人口減は大学進学率の上昇でカバーされていたが・・・

日本の18歳人口のピークは、ちょうどいまから50年前の1968年。当時は254万人もの18歳がいた。その後1976年に154万人まで減るが、再び1992年に205万人まで盛り返す。この年をピークに、その後は年度により多少の増加はあるが右肩下がりが続く。直近の2017年は120万人で、1968年の47.2%しかいない。なんと半分以下になっている。

ただ18歳人口が減っても大学進学率が年々上昇していたので、大学進学者数はむしろ増えていた。大学数と合わせて5年刻みで表にしてみよう（2033年、2040年は予測）。

年	18歳人口	大学進学率	大学進学者数	大学数
1992	205万人	26.4%	54万人	523
1997	168万人	34.9%	59万人	586
2002	150万人	40.5%	61万人	686
2007	130万人	47.2%	61万人	756
2012	119万人	50.8%	61万人	783
2017	120万人	52.6%	63万人	764
2033	101万人	56.4%	57万人	—
2040	88万人	58.0%	51万人	—

実は2017年が大学進学者数のピークだとされていて、大学関係者の間では早くから「2018年問題」ということが言われていた。今後も大学進学率が上昇を続けたとしても、18歳人口の減りがそれ以上に大きく、大学進学者数の増加は見込めないからである。

全体状況は以上のようなことだとしても、個々の大学にとってもう1つ大きな問題が大学数の急増。2017年の大学数は764校。30年前の1988年は490校だったから、この間に300校近くも増えていることになる。需給関係のバランスが崩れ、全国の私立大学の4割近くが定員が埋まらない状況が続いていることはご承知の通り。今後、専門職大学などの設立で大学数はさらに増加する可能性がある。

女子の進学率上昇に期待

当然のことながら、大学の経営陣は早くから「2018年問題」には気が付いていた。まず考えたのが、男子の大学進学率は早くから高かったので、これ以上大きくは伸びないということ。ならば、これからは女子が大学に進学してくることに期待しよう、ということだ。次の表にあるように男子と女子では大学進学率に大きな差があったからである。

年	進学率・男	進学率・女	進学率・全体
1968	22.0%	5.2%	13.8%
1978	40.8%	12.5%	26.9%
1988	35.3%	14.4%	25.1%
1998	44.9%	27.5%	36.4%
2008	55.2%	42.6%	49.1%
2013	54.0%	45.6%	49.9%
2017			52.6%

これまでは主として男子を意識してきた大学が、女子にも選ばれるようにすることが大切になった。硬派なイメージを払しょくし、大学のキャンパスに女子学生を多くするにはどうするか。それを確実に進める手段の1つが付属校の共学化であった。付属校からの女子学生が大学のキャンパスで明るく楽しそうにしていれば、一般受験でも女子の受験者が増えるだろうと考えたのである。

2001年	中央大学附属
2002年	早稲田実業(移転)
2007年	法政大学第一(法政大学に校名変更。移転)
2008年	明治大学付属明治(移転)
2016年	法政大学第二

硬派な大学の付属校の共学化にはこのような背景があるのである。

スクールカラーの希薄化への対策

大学の経営陣が頭を痛めているもう一つの問題が、大学ごとのカラーが鮮明でなくなっていること。私が大学生のころには(数十年も前だが)、こんな言葉があった。「用心棒にするなら早大生、恋人にするなら慶大生、結婚するなら東大生」。そのくらい、見れば大学による学生像の違いがハッキリしていたのである。それがいまでは皆併願し、どこのキャンパスに行っても学生の様子はそんなに変わらない。その分当然愛校心も薄れる。創立以来の大学のカラーを維持していくにはどうするか。それも大学の経営陣にとっては大きな課題だった。

18歳になった高校生を全国から集める大学入試ではこの課題を解決するのは困難である。そこで、若いうちから、幼いうちから愛校心を持った学生を育てるために、中学校、小学校を開校しだしたのである。

中学校開校	
1992年	慶応湘南藤沢
1999年	芝浦工業大学柏
2000年	立教新座
	専修大学松戸
2007年	東海大学附属高輪台
2009年	日本大学藤沢
	東京農業大学第三
2010年	早稲田大学高等学院
	中央大学附属
2015年	東洋大学牛久

小学校開校	
2002年	早稲田実業初等部
2013年	慶應義塾横浜初等部
2015年	日本大学藤沢
2019年	東京農業大学稲花

大学入試が大きく変化する時代に備え、下からのパイプを太くして一定数を安定的に確保しておけば、少子化が進んでも一般入試の偏差値は下がらないですむと考えたのである。

系属、提携も進む

近年はこうした自分のところの付属校の強化だけでなく、他の学校法人と手を組む動きも目立っている。

一方でこれは、私立中高側からすると、有名大学と関係を持つことで中学入試、高校入試での生徒募集につなげようという生き残り戦略の1つでもある。

2010年	横浜山手女子⇒中央大学横浜山手⇒2012年共学化⇒2013年中央大学附属横浜
2015年	京北⇒東洋大学京北(同時に共学化)
2016年	横浜英和女学院⇒青山学院横浜英和⇒2018年共学化
2019年	日出⇒目黒日本大学(日本大学の準付属に)
	浦和ルーテル学院⇒青山学院大学系属浦和ルーテル学院

このほか、麹町学園女子が設けている「東洋大学グローバルコース」のような提携も、関西ではものすごく発達している。例を挙げると、平安女学院中高、育英西中高に「立命館コース」、帝塚山学院中高に「関西学院コース」、京都聖母学院高校に「同志社女子大連携コース」といった具合である。

今後首都圏でも増えるとみていいだろう。

以上のように、大学が置かれている状況という視点に立つと、付属校の開校・共学化、系属校の増加がどうして起こっているのか、その背景がよく理解できるのではないだろうか。

小論文の新しいテーマを探る

——元号の変わり目で「昭和」と「平成」の時代的意味を考える

今回は小論文の新しいテーマについて考えてみたい。これは2019年入試対策という意味合いもちろんあるが、同時に2020年に向けてという狙いも含んでいる。入試小論文のトレンドについては本誌でも何度か触れてきたので、それとなるべく違った視点からの内容で話してきたい。

●昭和VS平成の構図をどう捉えるか

今年の4月30日に平成天皇が退位し、元号が変わる。そこで「平成」という時代がどのような時代であったかが当然検証されるわけだが、それは「昭和」との対比がなければ成り立たない。そこで、今回は昭和と平成をどのような構図の下に捉えていくかの見取り図を私なりに示したい。このテーマはまだ考え始めたばかりなので、細部の詰めは今後必要であり、「ノート」的なニュアンスで読んでいただければと思う。

まずは昭和と平成の基本的なイメージないしはモデルを挙げてみる。

*昭和：1926年～1989年(64年間)

⇒平成の倍以上の長期間で、第二次世界大戦によって戦前・戦後に分けられるが、私たちが取りあげる昭和は主として戦後の高度経済成長以降のイメージで語られる。

*平成：1989年～2019年(31年間)

⇒これに対して平成は、主にバブル崩壊後の低成長・長期停滞のイメージで語られる。

つまり、昭和VS平成は「成長が続いた時代」VS「成長が失われた時代」という対比項によって押さえるのが基本構図である。

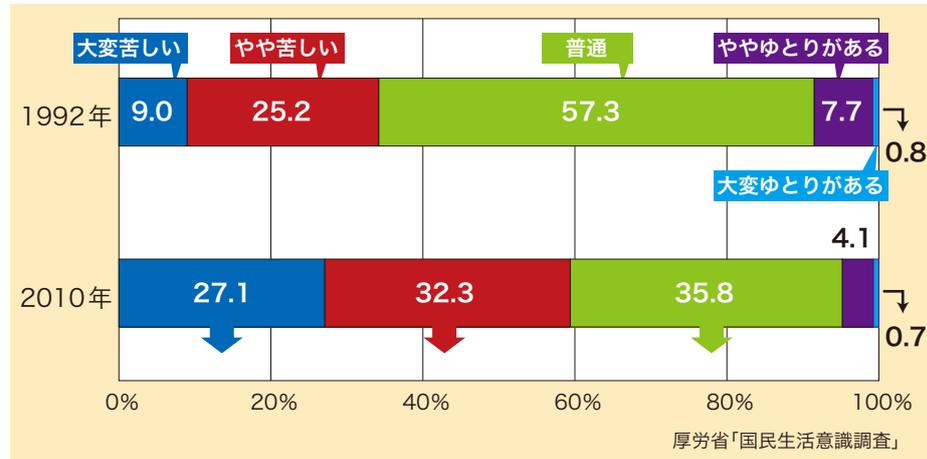
ここでこの構図を理解するために、もう少し厳密な定義をしておくならば、平成は1989年から始まるが、昭和モデルとしては高度成長期(1973年まで)～安定成長期(1973年以降バブル期まで)の範囲を考える。つまり1960年代初め～1990年代半ばまでの約35年である。バブルの終わりは通常1991年(平成3年)とされているが、実感としては1990年代半ばころまでその余韻が続いたと考えられる。たとえばバブルの象徴としてしばしば引き合いに出される「ジュリアナ東京」の存続期間は1991年～94年である。

一方、平成モデルは1990年代半ばから現代までの約25年間とする。この期間をもう少し細かく見ると、平成が始まってから2002年までは「平成不況」と言われ、俗に「失われた10年」とも称された。その後、2002～2008年は現象的にいったん景気が戻ったが、人々の生活は好転せず、「実感なき好景気」とも言われた。そして2008年のリーマンショック以降はマイナス成長が続き、現在に至っているとい

うのが大方の見方である。平成30年を長期停滞と位置付ける学者も多い。

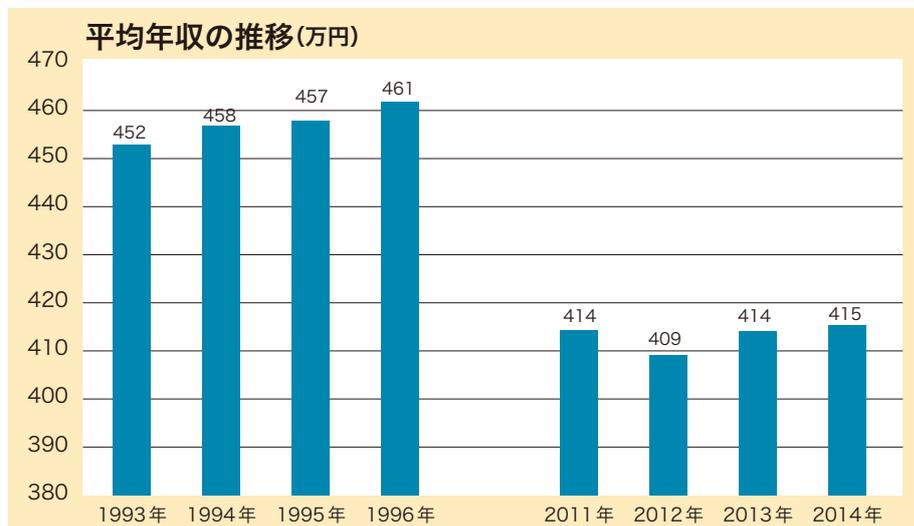
昭和モデルを「成長の時代」、平成モデルを「成長喪失の時代」と概括したが、それをデータによって跡づけてみよう。まずは厚生労働省が毎年行っている「国民の生活意識調査」のうち「生活意識別世帯数の構成割合比率」からである。

国民の生活意識の推移：生活意識別世帯数の構成割合比率



上記のグラフにおいて1992年は平成4年だが、私たちのモデルではバブル期の余韻が残る昭和モデルに入る。このグラフは世帯ごとに自分の生活状態が「大変苦しい」「やや苦しい」「普通」「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」のいずれに該当すると思うかを聞き取り調査した結果である。これを見ると1992年に生活が「大変苦しい」と答えた世帯は全体の1割にも満たない9%だった。それが2010年には27.1%と3倍にもなっている。1992年に「普通」と答えた世帯が57.3%と6割近くあったのに2010年は35.8%にまで落ち込んでいる。2010年では「大変苦しい」と「やや苦しい」の両方を合わせると約6割になる。つまり、1992年に6割あった「普通」層が、2010年には「苦しい」（「大変」と「やや」の合算）層になってしまったのである。昭和から平成にかけて経済成長が失われたことが人々の生活意識にはっきりと反映されている。

もうひとつ、今度は平均年収の推移を見てみよう。



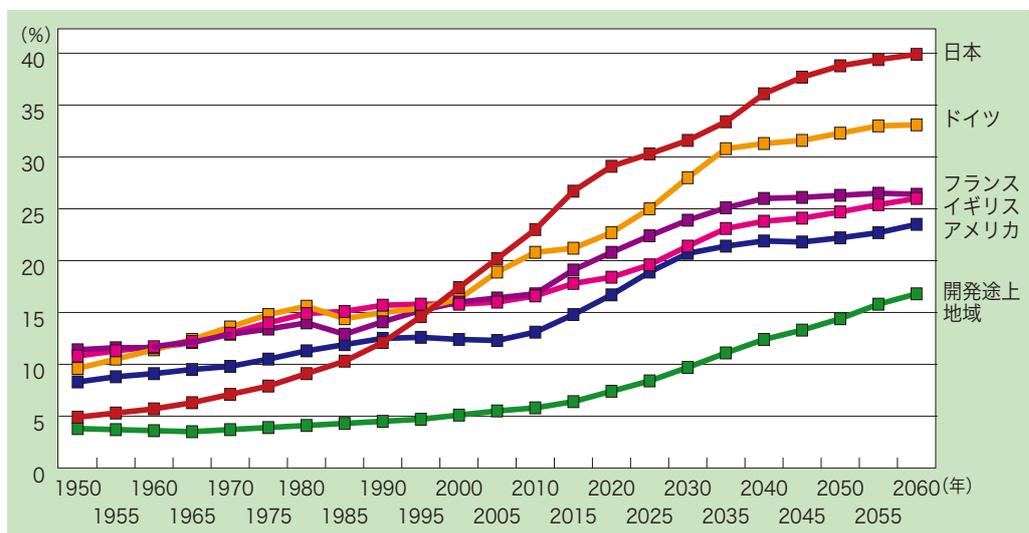
1996年(平成8年)まで平均年収が増加しているのは、バブル採用期の社員の給与水準の高さを物語っているが、それが約20年後には45万円も下がっている。このデータもやはり、先の生活意識調査における「苦しい」「大変」と「やや」の合算層の増加を裏づけている。

● 昭和から平成への転換と重なるグローバル化・少子高齢化

このように人々の生活意識や年収の実態データによって、昭和モデル＝「成長の時代」、平成モデル＝「成長喪失の時代」という基本構図を見てきたが、ここから小論文入試の出題に引き寄せると次の2点に留意すべきだろう。

ひとつは昭和・平成という2つの時代を分かち時点がグローバル化の始まりと重なることである。この視点に立つとき、昭和から平成へのモデルは、「総中流(社会)」から「格差(社会)」というキーワードに変奏される。実質的なバブルの崩壊にグローバル化の競争原理が重なり、「年功賃金・終身雇用」という日本型の雇用システムは一気に縮小し、社会の中に居場所を見つけられる人とそうでない人が分断される格差社会になっていく。ニート、ワーキングプアなどの言葉が生まれ出され、非正規労働者の数が4割を超える時代に入って久しい。このあたりは、小論文の定番と言っていいが、それを昭和から平成への流れと関連させていくことが求められる。

もうひとつは、昭和から平成への転換が少子高齢化の起点にもなったという現実である。今後の小論文の出題としては、こちらのほうがメインになるだろう。



国連「World Population Prospects」より

上記は高齢化率の推移を国際比較したもので、日本の高齢化がいかに進んでいるかを改めて認識させられる。実際、日本は世界で最も高齢化の進んだ国なのである。しかし、グラフをよく見ると日本の高齢化率は1980年代の半ばくらいまでは、欧米先進国とくらべても非常に低かった。逆に言うと、バブルの崩壊を境に日本の少子高齢化は加速的に進んだと言える。成長時代に機能した「年功賃金・終身雇用」の日本型システムの縮小に伴い、人々の賃金は上がらず、暮らしが苦しくなって、子

どもの数も当然減少していく。成長の喪失とともに国の財政は悪化の一途をたどるが、超高齢化社会に突入した日本は社会保障費が増大し、それを補うための赤字国債による借金が膨大になっていく。ここから先は、財政上のファクターがいろいろ入ってきて論の分かれるところなので、高校生が知っておくべき知識として、以下に基本的な question を挙げてひとまずの区切りにしたい。

問1 次の1～4のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。
(×はどこが誤っているかを指摘しなさい)

1. 日本は2020年以降も高齢者数が急速に増え続けるため、高齢化がさらに進んでいく
2. 日本の高齢化率は2060年に約30%に達すると推定されている
3. 日本の高齢化率は1990年代から急速に進み、先進国ではアメリカに次いで高い
4. 日本の社会保障費は国の歳出の約3分の1を占めている

問2 日本は次のどれに当てはまるか、正しいものを1つ選べ。

1. 高齢化社会
2. 高齢社会
3. 超高齢社会

(答えは本文の末尾に掲載)。

● ネット・ケータイの驚異的な進化

昭和との対比において、平成をかなり負のイメージで捉えてきたが、逆に平成に入ってから昭和では全く考えられなかった決定的な要素がある。それはネット・ケータイメディアを中心にしたITの急速な進展である。この観点から見たとき、「昭和＝アナログ」VS「平成＝デジタル」という構図に変わっていく。

ネット・ケータイメディアの変遷について、ここで述べるスペースはないが、ケータイの前身とも言えるポケベルの誕生が1992年、インターネットの普及を1995年のウィンドウズ95の出現に見るとして、それからたかだか25～30年の間に私たちの生活はこれらなしには成り立たなくなっている。今その歩みを調べ、簡単な年表化したのが、たどりながらその驚異的な進歩に改めて立ちすくむ思いがする。

ここでは入試を意識して、スマホを中心にいわゆるSNSと呼ばれるコミュニケーションについて述べることにする。

かつて宮台真司はコミュニケーションの変遷を次のように図式化した。

- ① 1×1 のコミュニケーション・・・face to face(直接的なやりとり)
- ② $1 \times n$ のコミュニケーション・・・マスメディア⇒視聴者・読者(テレビ・ラジオ・新聞など)
- ③ $n \times n$ のコミュニケーション・・・不特定多数が集うメディア(ツイッター・フェイスブック等のSNS)

私たちの最も基本的なコミュニケーションは対面で行う「1×1のコミュニケーション」で、やがてマスメディアの発達により、今まで手の届かなかった範囲の情報を手にすることができるようになる。それはラジオ・新聞・テレビを中心にしたメディアが、不特定多数の人間に一方向から語りかけるものとして「1×nのコミュニケーション」と規定される。

そして、私たちが平成に入ってから目にしたのは不特定の間が同一面できりとりできる「n×nのコミュニケーション」である。未知の間同士が、趣味や考えを共有し、意見を交換する場を「いつでもどこでも」提供できるシステムが今や私たちの周りを取り巻いている。子どものころに固定電話もテレビも珍しかった私のような世代には、まさに「一身にして二生を経るが如く一人にして両身あるが如し」(福沢諭吉「文明論之概略」)という感がある。

この宮台真司の図式がいつごろ言われたものか手元の材料を調べる余裕がなかったが、パソコン通信のチャットなどが言われた極めて初期のネット環境のころであったのは確かで、恐ろしいほど予言的な洞察力だと思ふ。当時はケータイの普及もまだ始まっていなかったはずである。そこで宮台が述べたことを、現在のSNSが発達していく過程としてとらえ直すと以下ようになる。

- *既成のマスメディアは表向きのことし言わない(本当の真実は隠されている)
- ↓
- *本音のSNSのほうに真実があるように見える(既成メディアの権威がゆらぐ)
- ↓
- *SNSによってフェイクニュース・デマが拡散する(偽情報の高速性と広範囲)
- ↓
- *既成メディア情報の信頼度が見直される(しかし、簡単に既成メディアに戻れない)

かつてエジプトで「アラブの春」と言われた人々の革命的行動が起きたときのフェイスブックの力は、私たちに新たな人々のつながりを感じさせた。それは既成メディアが伝えられない直接的な思いを人々に届ける力を発揮した。近年、トランプ大統領をはじめ、政治家がツイッターを利用するようになった理由もここにある。それは、既成メディアのフィルターなしに直接人々に語りかけることができ、受け取る側も直接反応できる。

しかし、やがて自分を有利にするためのフェイクニュースやデマが投じられ、それが拡散するという事態が発生する。偽の情報は正しい情報の何十倍もの速さで広範囲に広がっていく。そうなったとき、今度は一応の裏づけが取れているマスメディアの情報の正しさが再浮上する。少なくともマスメディアは故意にフェイクニュース・デマは報じない。ただ一度SNSのメディアを知った人々がそのままストレートに既成のマスメディアに帰還することも難しい。ここに改めてメディア・リテラシーの問題が浮き彫りされるのである。

最後に先の問題の答えを挙げておく。

問1は4のみ正解。

・ 少子高齢化問題を考える基本データは下記の資料。

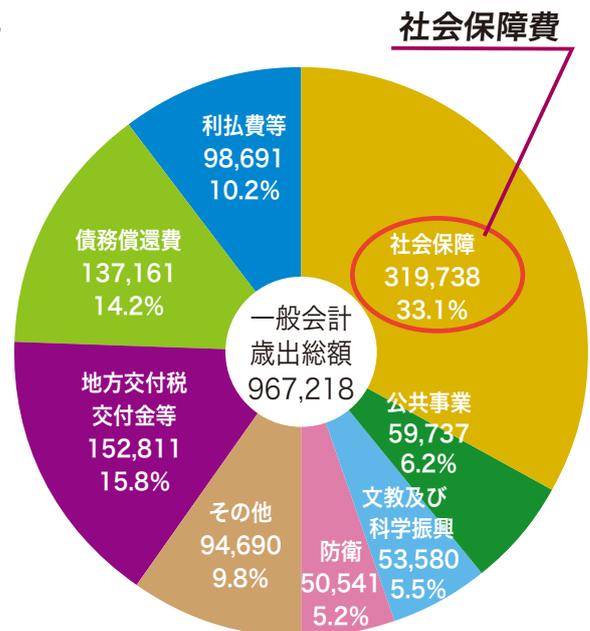
■高齢者の推移予測

年	高齢者数(万人)	高齢化率(%)
2020年	3,619	29.1
2025年	3,677	30.5
2030年	3,716	31.8
2035年	3,782	33.7
2060年	3,464	39.9

- ・ 上の表は、2020年から2060年までの高齢者数と高齢化率の推移を国が予測したもの。
- ・ 高齢化問題で必ず言われるのは、日本が2060年に高齢化率が「約40%」になること。従って2の「約30%」は誤り。
- ・ 高齢化が進むことは高齢者数が増えることではなく、全人口に占める高齢者の割合が高くなることを意味する。
- ・ 表中で高齢者数が2020年→2060年で約150万人減少しているのに、高齢化率は10%以上上がっているのは総人口の減少によるもの。
- ・ 2020年の総人口が1億2480万人、2060年が8680万人と推計される。以上から1が誤りだとわかる。
- ・ 先にあげた高齢化の国際比較のデータから、日本はアメリカよりも高齢化率が高いとわかるので3は誤り。
- ・ 日本の予算の歳出に占める社会保障費の割合33.1%なので4は正しい
- ・ 下の円グラフ(2016年度)を参照。
- ・ 社会保障費をいかに抑制するかが日本の財政健全化の最大の課題である。

問2は3が正解。

- ・ 高齢社会の定義と日本の推移は以下のようにになっている。
- ・ 7%を超えると「高齢化社会」になる→日本は1970年に到達。
- ・ 14%を超えると「高齢社会」になる→日本は1994年に到達。
- ・ 21%を超えると「超高齢社会」になる→日本は2007年に到達。
- ・ したがって、3が正解になる。



文・大堀精一((株)学研アソシエ「学研・進学情報」監修)